

「おにぎり」をモチーフにしたロゴマークは、おにぎりの海苔の部分が「赤ちゃん」となっており、地域みんなに包み込まれて、お腹いっぱいスクスク育つ赤ちゃんの姿を表現しました。

キャラクターは「あわまるちゃん」。 「阿波（あわ）」は古くは、穀物の「粟（あわ）」に由来し、食と子育ての象徴でもあります。

徳島らしさを大切にしながら、このシンボルマークとともに「赤ちゃん食堂」を全国へ広げていきたいと考えています。



徳島から
全国へ！

赤ちゃん 食堂

食

相談

交流

給食室などで調理した「こどもの離乳食」と「おとの食事」を無償提供

保育士・助産師・栄養士・看護師などが身近に寄り添い、悩み相談に応じる

参加する親同士やボランティアの先輩母親などと安心して自然に関われる

沖浜・田宮シーズ認定こども園

2024年6月スタート！

徳島市の田宮・沖浜のこども園で各月で開催。給食室で調理した子どもの離乳食、おとの食事を4組に提供。保育士や栄養士、看護師等が相談支援する。



一般社団法人はぐっと

2025年1月スタート！

石井町の児童発達支援施設で月2回こども食堂やフードパントリーと一緒に赤ちゃん食堂を開催。こどもにはベビーフード、おとなには弁当を提供。保育士や心理士が相談支援。



NPO法人マチノワ

2025年4月スタート！

徳島市のおきのすインドアパーク「マチノワみんなのお茶の間」で2ヶ月に1回開催。こどもにはベビーフード、おとなにははれいろキッチンの弁当を14組に提供。助産師が相談支援。



はれいろキッチン

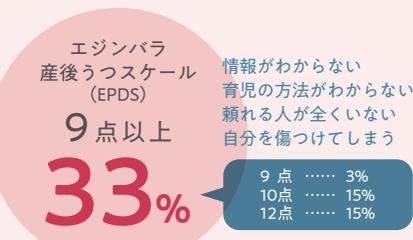
2024年4月スタート！

お弁当宅配を注文した子育て中の家庭へ「あかちゃんまんま」を無償提供。主な配達エリアは、徳島市内。先輩母親スタッフによる見守り。



2024年4月からスタート！現在は、徳島県内5箇所に広がる！

徳島県内の産前産後の現状



調査結果の対応として



マチノワみんなのお茶の間

妊婦・親子・地域の居場所

アンケート調査では、マチノワの利用者層や利用状況、産前産後の精神的負担について分析を行いました。

30代の利用者が71.5%、第1子を連れた利用者が78.6%と最も多い結果となっています。徳島県(2023年)では29歳で結婚し、30歳で初めての出産を迎えるのが平均的であり、この傾向は今回のアンケート結果にも表れています。また、生後6か月未満から1歳半までの子どもを連れての利用が75%と、特に月齢の低い子どもを持つ親の利用が多いことが確認されました。

次に、マチノワの利用頻度について調査した結果、ばらつきはあるものの月に1~2回程度利用する方が多いことが分かりました。さらに、産前産後の精神的負担について、

エジンバラを用いた調査の結果、9点以上のスコアを記録した回答者は33%にのぼりました。「頼れる人が全くいない」などの不安を抱え「自分を傷つけてしまう」ほど追い詰められている方もいました。これらの結果から産後うつのリスクが高い親へのサポートを強化する必要性が明らかとなりました。

徳島県内で「初産・低月齢児を抱える親」「つながりが少ない人」が利用できる貴重な場として地域の受け皿となっていますが、現状では妊婦の利用が少ない傾向が見られます。今後も、関係機関との連携を強化し、妊娠期から利用しやすい企画を検討していく必要があります。居場所の取り組みを通じて、つながりを持ちやすい環境を整えることが重要です。

	居場所	助産師の日	赤ちゃん食堂
課題	<p>●自分のことや子どもの悩みを話せる相手が増えて、不安感が軽減した ●スタッフが間を取り持ってくれるので人見知りでも友だちができる ●自宅以外でランチやお茶をしながらゆっくり過ごせる居場所ができる</p> <p>不満</p> <p>①大きい子どもがいると、赤ちゃんが危険な場面がある ②赤ちゃんも楽しめるイベントをしてほしい ③自分が休める時間がほしいので託児してほしい ④利用料や登録方法、スタッフが変更になって戸惑うことがある</p> <p>①居場所のあり方や対象者の検討</p> <p>●低月齢の赤ちゃん向け支援の場として 0~2歳頃の子ども連れに焦点をあてた居場所としての周知 ●3歳以上の子ども連れにも継続的に関わってもらうために 企業からサポートを受けて同窓会&運動会を開催</p> <p>②初めての来所へつながるイベントの開催</p> <p>●ベビーマッサージなど赤ちゃんが体を動かせ発達をうながせるイベント企画 ●「ヨガの会」「産後整体」など親がほっとできるイベントの開催 ●WAM助成を受けたことで人材と環境を安定して活動できている ●研修会やボランティアの育成で安定的な居場所作りを目指す</p>	<p>不満</p> <p>●病院や退院してからも助産師からケアを受ける機会が少ない ●助産師からケアを受けてみたいが値段が高く利用できていない ●情報を知らない ●赤ちゃんが泣き止まない 寝ない、抱っこが大変 ●授乳がうまくいかない ●骨盤や身体に不調がある</p> <p>不安や悩み、負担感を解消できない状況がある</p>	<p>不満</p> <p>●日常的に頼れる人がいない ●子育ての方法がわからない ●情報がわからない ●自分のごはんを作ったり、しつかり食べたりする余裕がない ●離乳食を食べてくれない 悩みがある ●離乳食の作り方や進め方がわからない、不安</p> <p>不安や悩み、負担感を解消できない状況がある</p>
対応	<p>①居場所のあり方や対象者の検討</p> <p>●低月齢の赤ちゃん向け支援の場として 0~2歳頃の子ども連れに焦点をあてた居場所としての周知 ●3歳以上の子ども連れにも継続的に関わってもらうために 企業からサポートを受けて同窓会&運動会を開催</p> <p>②初めての来所へつながるイベントの開催</p> <p>●ベビーマッサージなど赤ちゃんが体を動かせ発達をうながせるイベント企画 ●「ヨガの会」「産後整体」など親がほっとできるイベントの開催 ●WAM助成を受けたことで人材と環境を安定して活動できている ●研修会やボランティアの育成で安定的な居場所作りを目指す</p>	<p>助産師の日</p> <p>月2日、居場所で徳島県助産師会による「助産師の日」を開催。妊娠・出産・子育てのフェーズ毎に変わる悩みや不安などに寄り添う、学びや体験イベント、個別相談を提供し、育児の負担感の軽減。安心して子育てできる環境を目指す。</p>	<p>赤ちゃん食堂</p> <p>2ヶ月に1日、こども園を会場に、こども園の保育士や看護師、栄養士と連携し「赤ちゃん食堂」を開催。赤ちゃんの離乳食(中期~後期)と親のごはんを提供し、子育てにおける日々の負担感を軽減するとともに、育児の悩みを気軽に相談できる場を提供。</p>
結果	<p>●第一子の妊娠中、0~2歳頃の子ども連れの利用がある ●予約なしのイベントを充実させることで 気軽に参加のきっかけになり継続的な利用者が増えている ●つながりや頼れる人が少ない人に支援ができている ●イベントの内容を通して育児の不安や悩みを軽減できている ●多世代や他職種の交流の場になっている</p> <p>●助産師の日を設けたことで妊婦やその家族の利用が増えた ●助産師ケアの満足度が高く居場所の継続的な利用につながっている</p>	<p>満足</p> <p>●子育てで不安な部分を助産師からアドバイスをもらえた ●居場所にいくついでに個別相談に乗ってくれるので助かった ●ポジティブに子育て出来るような声掛けで勇気づけられた ●出産時の助産師さんと再会できて心強い</p>	<p>満足</p> <p>●保育士が子どもに離乳食を食べさせてくれるので自分もごはんを食べることができリフレッシュになった ●離乳食のメニュー、味、量、形状などいい勉強になった ●300円など多少の料金が発生してもいいので、週1回ぐらいで参加したい ●保育士というプロがそばにいてくれるで安心感があった</p>